

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4370300768
法人名	医療法人 社団 健成会
事業所名	グループホームふれあいの家 御薬園
訪問調査日	平成 21 年 4 月 6 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 16日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2009年4月16日

【評価実施概要】

事業所番号	4370300768
法人名	医療法人 社団 健成会
事業所名	グループホームふれあいの家 御薬園
所在地	熊本県人吉市七地町495 (電話) 0966-22-5711

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番15号		
訪問調査日	平成 21年 4月 6日	評価確定日	平成 21年 4月 16日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤 0人, 常勤換算 6人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	190 円	昼食	380 円
	夕食	380 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(平成 21年 3月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2		2 名	
要介護3	3 名	要介護4		3 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 89、3 歳	最低	79 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ひとよし内科 愛甲歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

球磨川のほとりに自然豊かな環境を残しながらも車の往来や肥薩線の列車の音も感じることが出来る場所に位置しつつも、のんびりとした雰囲気ホームである。併設の他施設や医療機関との連携体制も整備されており、健康管理面での信頼も厚い。潜在能力に応じた役割や趣味活動などを生活リハビリとして支援し、身体機能の低下防止に努めており、入居者と職員とが楽しく取り組んでいる。研修体制も整備されているため職員のモチベーションが高く、資格取得者も多い。今後は認知症啓発への地域拠点として活躍が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域に開放されたホームのための運営推進会議が定期的開催され、婦人部や主治医の参加も得られている。入居者の立場に立った理念づくりが職員間で行われ、それに添ったケアを心がけている。管理栄養士が作成した献立からメニューを選択できるようにも工夫し、入居者の意思を反映させている。また誕生会などでより希望や嗜好を取り入れたものに配慮している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全項目をそれぞれが取り組み、話し合っ完成させた。できあがった自己評価は職員にも配布し、会議において検討し改善点についても把握している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には新たに婦人部や主治医の参加も要請し、定期的な開催がされている。主にホームの活動や入居者の状況・行事の報告等がされており、質疑応答が行なわれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や電話などで入居者の健康状態やホームの活動報告を行っている。意見が出やすい雰囲気心がけたり、意見箱の設置で意見や希望の把握に努めているが、意見を反映できているとは言い難い。今後は家族間交流の場の検討も望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の祭りや催事に参加したり、隣接する施設に出かけ地域の方との交流を支援している。小・中・高校生の総合学習受け入れを行い、グループホームや認知症に関する理解啓発を行っている。地方における認知症啓発の拠点ホームとしての活躍が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本年度は理念見直しのため全職員で協議し、グループホーム独自の理念を作り上げた。利用者やゆったり楽しみながら、共に喜び安心した生活を支援するものになっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見やすい場所の掲示板に掲示しており、訪問者や家族にも解説している。職員会議でも話題にして、理念を意識したケアを行っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や外出の際には地域の方に積極的に声をかけるようにしている。地域の行事や隣接する法人施設の行事などに参加し、地域の人との交流を図っている。地域の学校関係のインターンシップや総合学習の受け入れもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に取り組み、職員会議で話し合っ完成させた。自己評価結果を職員会議で検討し改善点も把握しており、外部評価結果と合わせて具体的な改善に取り組む計画をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しホームの状況や外部評価の結果等を報告している。会議の記録は職員会議でも検討し、サービス向上に活かすようにしている。		

グループホーム ふれあいの家御薬園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスの相談等は連絡調整できている。	○	会議などには行政関係者にも出席を求め、より連携した取り組みが可能になることが期待されます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時にホームでの生活状況や健康状態を報告し、面会の少ない家族には電話などを利用して報告している。金銭管理についても請求明細書を送付する際に領収書を添えて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時や運営推進会議の中で意見を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限に抑えるよう努めており、やむを得ない場合も引き継ぎ期間を設けて、少しずつ馴染んでもらうよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修の他に、外部研修や法人の研修にも参加している。外部研修の参加後は報告を行い、共有化も図っている。資格取得に対しては法人内での協力体制が整えられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度のブロック会議では管理者だけでなく職員も参加し、交流や情報交換を行っている。他のグループホームを見学したり同業者の訪問にも対応し、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学に対応し、十分な説明を行っている。また家族や居宅介護支援事業所からの情報を入手し、入居者が早く馴染んでもらうよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の支度・草取り・季節の活動(梅干しづくり、高菜漬け、花見など)など、日常生活の中で共に行いながら支え合う関係を構築している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や入居者との会話の中から、希望や意向を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の生活の様子を見てアセスメントをとり、職員間で話し合って介護計画を立案している。作成した計画は家族にも説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が当番で週のモニタリングを行い、3ヶ月ごとに計画の見直しを行っている。入居者の状態に即した介護計画の作成に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人施設からの訪問看護や、認知症対応型のデイサービスへの外出などで交流を図るなどの支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望するかかりつけ医を選定し、家族の状況に応じた受診支援も行っており、受診後は必ず報告して情報を共有するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームにおける終末期介護の指針を作成し家族にも説明をしている。家族の希望があった場合は健康状態を把握し、かかりつけ医・家族と相談しながら暮らしの支援を行っていく方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時などでの言葉かけや声のトーンなどにも配慮し、プライバシーの保護に努めている。記録する場所も事務所保管としている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、起床や就寝時間・食事・入浴など入居者のペースに合わせたケアに努めている。	○	一人ひとりへの充実した個別支援のための人材確保と人員の配置が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人の管理栄養士がたて、ホームで選択できるように工夫したり、誕生日には入居者の希望を取り入れた食事内容としている。食事の下ごしらえや後片付けなど能力に応じて入居者と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に合わせてゆっくり入浴できるよう支援している。併設の温泉へ出かけることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中でできる家事や趣味の支援を行っている。散歩やドライブ・買い物など気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブ・散歩などは入居者の希望に応じたり、外出への働きかけも行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せずセンサーチャイムを利用しているが、入居者が出られる時も見守りに徹するようにしている。身体拘束の研修会にも参加し、職員への周知徹底を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼・夜間想定避難訓練を入居者も参加して定期的実施している。年に1～2回は緊急時にも適切な対応ができるよう救命講習も受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事や水分の摂取量を記録し、摂取量の把握と対応を行っている。また入居者の嚥下状態に応じた形態での食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りのプランターや花壇には季節の花が植えられ、和室や廊下の腰掛けはでは一人ひとりが自由に過ごせる場所が確保されている。縁側では外気浴が楽しめるようになっており、快適な生活ができるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や花、位牌など入居者の生活用品を持ち込んである。また、一人ひとりに相応しい居室内のアレンジを支援するための工夫もされている。	○	家族への説明を十分に行い協力を求めることで、入居者一人ひとりの快適な生活環境を整えていく取り組みが望まれます。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームふれあいの家 御薬園
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県 人吉市
記入者名 (管理者)	和田 亮祐
記入日	平成21年3月18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ミーティングやスタッフ会議において、各スタッフ独自の理念を述べ合い、それをまとめ事業所独自の理念として作り上げている。前回の外部評価後、利用者の立場で考えた理念を作成した。	○	新たに作成した理念を実施していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を掲示板に掲示し、全てのスタッフが日常の勤務を通して常にそれを目のあたりにしている。又、ミーティングやスタッフ会議はもちろんのこと日常においてもスタッフに対し確認するなどの取り組みも行なっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては、掲示板に理念を掲示している。また、来園時などに話す時間を設けて理念の理解していただけるようにしている。地域に対しては、運営推進会議を通して行っている。	○	法人全体の広報誌の中で、紹介しているが理念が浸透しているかわからない。もっと施設へ来園していただき説明していく機会を作って行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の際には、地域の方に声をかけている。また、玄関周りには、花を植えて来園しやすいようにしている。ドライブ等で地域へ出た際には、積極的に話しかけグループホームの存在をアピールしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行事があるときは法人から又は町内会より連絡が入るようになってきている。又、スタッフも率先して調べるようにし、お祭りや季節の行事、関連施設のイベント等には積極的に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高校生のインターシップや小学校・中学校・高校生の総合学習の受入れを行っている。また、地域の方々の見学を受け入れている。 当グループホームの相談だけでなく、介護保険サービスに関する説明も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングやスタッフ会議にて自己評価及び外部評価によって出された評価について、毎週金曜日の勉強会で話し合い来年度に活かすように取り組んでいる。また、計画の見直しや評価もその都度行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た話し合いの記録をスタッフ会議で発表し、各代表者からの評価と助言、要望を確認し今後の課題の有無を検討している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスの相談等に関しては、連絡調整できている。	○	相談等の事務的なことだけではなく、市町村との連携を充実させていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会には参加できていないが、法人全体の研修は出ている。機会があれば、研修会に参加していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の勉強会においてもテーマとなっていることと、理念にも示しており、虐待は防止できている。また、法人全体の勉強会で研修報告など取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は管理者が入居者や家族と面談を行い、それぞれの希望、不安や問題点を尋ね、十分検討し同意を得ている。又、入居後には家族が来訪した際には入居者の近況を報告し情報交換に努め、入居者や家族が話しかけやすい雰囲気を感じてもらえるよう心掛けている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にも苦情等に関する書類を添付している。また、問題が発生した際には職員で速やかに対応策を検討する体制も整っている。又、これらの事項があれば運営推進会議における報告はもちろんのこと、法人全体の会議でも検討議題にしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会に来られた際に、健康状態や活動等について話している。来園されない家族には、電話等で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他、ご意見箱を設置している。意見があった際は、運営推進会議で議題として取り上げている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週金曜日ごとに実施している職員の勉強会の中で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。その中で出た意見等は、当グループホームで検討しできる限り運営の中で反映できるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前にわかっていることについては、できる限り対応できるよう勤務を調整し要望に副えるよう勤務を調整している。また、急遽決まったことに関しても、連絡を密にしておき対応できるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を必要最小限に抑えられるための努力は行っているが、やむを得ず職員が異動や離職を伴う場合においては、入居者のダメージを防ぐ為に勤務を調整したり、なじみの職員が入居者との懸け橋となりダメージを防ぐようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「運営は人材の育成が要になる」との信念があり、毎週金曜日の勉強会はもちろんのこと、様々な研修への受講を進めている。また、資格の取得には職員全体で協力している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回の地域ブロック会に出席し交流・情報交換を行っている。また、管理者だけでなく職員も他施設を見学・訪問し質の向上に努めている。地域の同業者からも見学等の交流がある。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の理解を深める為の催しを企画し定期的開催している。また、必要があればストレス軽減に向けての話し合いを行う場も設けられている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自が向上心を持って勤務できるよう、親睦を深める為に諸行事の開催を行い、勤務実態や実績についても詳細に把握し、向上心を持たせる環境づくりに努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の様々な相談から施設見学を随時行っている。又、入居をされてからも常に悩みや不安、本人の希望を傾聴する雰囲気作りを心がけ、信頼を築く努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人はもちろんのこと、御家族から多くの確かな情報を頂く為、また、御家族が疑問に思っている事、不安に思っている事を聞き取る為、相談から施設見学時、そして入居以降においても、随時談話の機会を作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者個人についての情報や家族の話をもとに、入居者本人の現状に即した支援を見極めた上で、必要があれば関連機関と連携し、適切なサービスを提供できるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	あくまでも入居者優先を心がけ入居者のペースで生活できるように配慮し、他入居者との関係構築のフォローを行っている。又、家族が来訪された際、職員へ気軽に質問・相談できるような雰囲気作りを心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の活動を一緒に行い、共に生活しているという事を実感して頂いている。その中で、入居者の方と職員との間に自然とした会話や笑顔が生まれている。	○	左記の内容を継続していくと共に、入居者の状態・レベルに対する活動を常時考えていく。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に入居者の方の小さな変化にも気づけるようにし、入居者の状況を家族の方へ伝え解決方法を一緒に考えている。	○	左記継続
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の方のこれまでの生活歴や家族とどのような関係を築いてきたかを理解するようにしている。自宅への一時的な外出や外泊があまり出来ていない。	○	お盆やお正月は、なるべく沢山の入居者の方に自宅にて過ごして頂けるように家族の方への説明を行っていく。その他の時間においても、家族と常時相談し合いながら検討を行っていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等により関係の継続は出来ているが自ら訪問する機会があまり出来ていない。場所に関しては外出する機会があった際はその場所を通ってみたり、寄ってみたりと適宜行っている。	○	馴染みの方に対しては、面会や外出の機会を設けたり、葉書や電話などの通信手段を用いていく。場所に関しては本人や家族等へ話を聞いていき、他に馴染みの場所がないかなど随時把握に努めていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれに仲の良い入居者の関係や、よく会話をされる入居者が居る事を全職員が把握しており、一緒に行える活動（おやつ作り・洗濯物たたみ等）を提供している。	○	左記継続

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居されてからも、気軽に会いに来られたりされ関係が継続している。また、こちらから会いに行く機会もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方と職員が個別で話しを聞く・入居者の方が話し易い環境を作り、本人の希望や意向の把握に努めている。また、面会に来られた家族や遠方へいらっしゃる家族とも連絡を取りながら情報交換し随時検討している。	○	入居者のメンタル面・健康面などの状態変化に注意し、常に考慮していくと共に、入居者が話しやすい雰囲気心を掛ける。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・知人等から話を聞き情報を得たり、以前利用されていたサービスを提供する事業所との連絡を行ないその方のこれまでの暮らし方等の把握に努めている。	○	左記継続
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全入居者の心身の状態・性格等を全職員が把握し、それぞれの入居者に合ったケアを行えるように努めている。	○	居室に戻られた際の過ごし方にもう少し配慮出来るようにする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や希望を基に、関係者・職員が話し合い、本人本位の介護計画の作成に努めている。また、来園された家族に対し、本人の状態の説明とを行い、支援に対する意見や希望の聞き取りに努めている。	○	本人の状態・意向を第一に置き、変化のあった際にもより良く生活出来るように努めていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。また食事形態・歩行能力・身体状況・認知症など、心身の状態変化に応じて本人・家族、関係者とその都度話し合い、本人の状態に即した介護計画の検討・作成に努めている。	○	左記継続

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入を行うと共に、重要事項は申し送りノートを用いて、全職員が出勤時に目を通すよう徹底する事で情報の共有・実践を行い、また介護計画の見直しに活かしている。		左記継続
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族からの意見を介護計画に取り入れ、その時々々の要望に応じ介護計画を作成し、柔軟な支援が出来るように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の生活の安定や拡がりのために周辺地域の諸施設から協力を得ることが出来るよう、理解を広げる働きかけを相互に行っている。(近所のスーパー、歯科、美容師、消防、警察署、交番、ボランティア)。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向(必要性)に応じて提携機関のケアマネジャー、サービス事業者と話し合いデイケアサービス等を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者が地域ケア会議等に参加し、その会議の中や電話などで随時情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の変化や異常発生時に気軽に相談できる看護職員や医療関係者を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	管理者と協力医療機関の医師や同一法人の医師との連携が取れ、必要に応じて相談し、助言を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションより看護師が週一度来訪したり、必要に応じて相談しながら入居者の健康管理などを支援してもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関に情報を提供し、家族にも説明や相談をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	随時、入居者の健康状態を把握し、早い段階から家族やかかりつけ医を含めた話し合いを行い、方針の共有に努めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	こまめに個人記録に記入し、また情報を共有する場を設ける事でスタッフ一同が入居者の「できる事、できない事」を見極めている。終末期介護の指針を作成しており、担当医、家族と相談しながら暮らしの支援をしていきたい。現在まで施設での看取りを希望する人はいなかった。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホーム・移動先間で緊密に情報提供を行い、環境の変化で心身共にダメージを受けないように配慮している。また、家族とも相談し時期等を考慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に入居者の気持ちを考えた言葉使いを行っている。また記録物等は必要のない限り職員以外の目に付かない場所に保管し、記録も入居者の方とは別の部屋で行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者の状態に合わせて筆談やジェスチャーをコミュニケーションに取り入れ、必ず入居者本人が納得し、決定できるように支援に努めている。また、入居者が訴えを話し易いような雰囲気作りに努めている。	○ 左記継続
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・臥床時間、食事、入浴など一日の生活を入居者のペースに合わせて行う等、出来る限り入居者の希望・体調に沿ったケアを提供できるように努めている。	○ 自分の希望を上手く伝える事の出来ない入居者に対しても出来る限り本人の意向に沿ったケアを提供できるように努めていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの理・美容室がある方はその場所へ外出している。また、特に行きつけの場所がない方はグループホームへ美容師の方を呼んで対応を行っている。	○ なるべく理・美容室へ出かける機会を設け、外出自体も楽しんで頂けるようにする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの能力に応じて、食事の準備・調理・後片付けのお手伝いをお願いし、食事がより楽しいものになるように努めている。	○ 庭でのバーベキューなど時季に応じて行っていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を確認し、健康状態に注意しながら嗜好品の提供を行っている。また、飲食物は消費期限、保管場所に注意し必要があれば処理、保管を職員が行っている。	○ 家族が嗜好品を持って来られない方は、職員と買い物に出かけ、自ら嗜好品を選んで頂く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人・家族希望や必要に応じナプキンや尿取りパット、リハビリパンツを用いると共に、声かけや誘導で排泄パターンを把握し、ナプキン類の使用や失禁などの軽減を図り、本人・家族等とも検討しながら、排泄支援に努めている。		左記継続
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のより曜日・時間帯・当日の入浴の有無の希望を聞いた上で調整し、個々人の希望される時間帯にゆっくり入浴して頂けるように努めている。		左記継続
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は本人希望や疲労感など状態に応じて臥床時間を設けている。夜間、希望者には湯たんぽや冷暖房器具の使用を行い良質な睡眠が取れるようにしている。		左記継続
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの好まれる作業や活動を把握し、状況に応じて声かけ等行っている。また、月毎のカレンダーに行われるイベントや週間の予定を掲示し、入居者にも分かりやすく、参加しやすい環境を作っている。	○	居室へこもりがちの方へは、メンタル面も考慮しながら誘いかけを行っていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には金銭の受け渡し、計算等の手伝いを行い、出来るだけ本人が自分の意思の元金銭を扱えるように本人の希望や金銭管理能力を把握した上で対応している。	○	左記継続しながら、金銭トラブル防止・金銭管理の向上に努めていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブ・散歩等、本人の希望や声かけにて対応している。また、トーキングサービスを行い、戸外に出かけたいと訴えがないか等、職員の側から把握出来るように働きかけを行っている。	○	左記継続
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望に応じてその都度ドライブ・日中の散歩、集団での地域へのイベント参加等実施しているが、家族と共に外出する機会には個人差がみられている。	○	家族へも声かけを行っていき協力を求めていく。また、個人差を出来るだけなくしていく為に、全体での定期的な外出を設けていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望に応じ対応出来ているが、遠慮されていたりする場合も考えられるので、その際には会話の中で本人の意思を確認していけるように努めている。	○	時季に応じて葉書等（代筆含む）出したり、いつ頃連絡が可能であるか等伝えていける環境を整える。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された方には各部屋にて来園者・入居者が一緒になってお茶やお菓子等楽しみながら、ゆっくりと時間を過ごして頂けるように準備・支援・環境整備を行っている。また、家族に対して本人の状態や近況の報告を常時行なっている。	○	左記継続
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して勉強会、話し合いの機会を設け職員の周知徹底を図っている。また、危険行為や徘徊等する方に関し、対応方法を適時検討し、入居者本人の意図を考慮した上で声かけ、見守り、散歩等の気分転換や訴えの聞き取り等の対応を行っている。	○	左記継続
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室窓共に常時開放している為、入居者の見守り・所在の把握を行い、事故の防止に努めている。	○	左記継続
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員を必ず一人は入居者を見守り出来る位置に配置し、居室におられる方にも、ストレスを与えない程度に訪室し様子を見ると共にトーキングサービスを行う等、入居者のプライバシーと安全に配慮している。	○	左記継続
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤や洗剤、刃物等は入居者の目の届かない所へ保管し、使用後は元の場所へ戻すよう徹底している。入居者個人で所有されておられる注意が必要な物品についても、本人・家族と話し、保管場所を統一する事などを了承して頂いた上で常時管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会・話し合い等の機会を設け、個々の対応方法の統一を行うと共に、変更のあった際には申し送りノートと介護日誌に記入し、出勤時必ず全員が確認するようにし、周知徹底を図っている。	○	左記継続

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを作成し、年1～2回は消防署協力の基、緊急時の救命講習を受けている。また、防火訓練等は、消防署協力・指導の基、入居者と一緒に定期的の実施している	○	左記継続と合わせ、急変時等の対応方法を関連機関と共に検討していくように努める。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施し、災害時に適切な対応が行えるように、技術的・身体練習を行っている。また、災害時の地域連絡網があり、必要な時には協力が得られるように備えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の方が来園された際には出来る限り時間を設け、入居者の近況報告を行い、現在の状態・疾病等に因る今後のリスク、そのリスクに対する職員の対応方法、バックアップ機関との連携など説明し、家族の意向を確認しながら意見交換に努めている。	○	遠方におられたり、状況に応じ来園が困難な家族に対しても定期的に通信手段を用いたりしていくなど工夫を行っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の状態観察・体温測定・定期的なバイタルチェックを行い、カルテへの記載・申し送りノートの活用・職員同士の直接的な申し送りをし細部に於けるまで全職員が把握し、小さな状態変化にも目を向け早期発見・予防に努めている。また、訪問看護による定期的な健康チェックの支援、随時情報交換を行っている。	○	左記継続
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を用い、薬の種類・用量・副作用について把握できるようにしている。また、症状の変化があった際、かかりつけの医師に的確に報告できるよう工夫している。服用の際は、出来るだけ自力にていただき、誤薬・飲み残しのないよう一人ひとりにその都度手渡し見守りを徹底している。	○	左記継続。職員に対しては定期的に入居者の疾患・薬に関して勉強会を実施し、再認識のためしっかりと説明など行い注意を促していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事以外に水分補給の時間を設けている。また、午前・午後の二回に分け短時間でも身体を動かしていただくよう声かけ等おこなっている。腹部マッサージなども取り入れ、排便3日以上ない場合は本人に合った下剤を服用して頂いたり、訪問看護へ摘便を施行して頂いたりしている。	○	左記継続
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがい時にはイソジンガールを使用し、義歯洗浄時には専用の物で消毒・洗浄を行っている。なるべく自分で行って頂き必要に応じて手直しを行う。残存歯や舌などにも注意し、口腔清潔を徹底している。	○	左記継続

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理の下、指示に従い栄養バランスの摂れた食事を提供している。毎食後には水分・食事摂取量をチェックし摂取量の少ない方に対しては声かけ・説明を行っている。	○	左記継続。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成している。マニュアルに基づき、室内・トイレ・廊下などの共用空間・居室の消毒など感染症に対する予防を行っている。	○	左記継続。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は毎食後消毒液を用いて掃除をし、週1回冷蔵庫の整理や食器の消毒の実施、毎日調理器具の消毒を徹底して行い、食中毒の予防・食材の管理に努めている。常時食材の消費期限のチェックを行っている。	○	左記継続
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の出入り口には看板を設置し表示してある。また、玄関先にはプランターを用い季節に応じた花などで明るくしている。	○	左記継続。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や照明は利用者に声かけし、調整している。部屋でテレビ見られる際は周囲に不快感を与えないようイヤホン用いていただいたり、その方の聴力に応じたトーンで対応している。また、玄関や居間、食堂など目に入る箇所には常時、季節の花々を生けたりしている。	○	左記継続。 入居者の話を傾聴しながらより心地よく過ごして頂けるように努めていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や居間があり、入居者が自身の時間をもてたり、入居者同士が交流を図れたり心地よく過ごして頂ける空間を作れるように工夫している。	○	左記継続。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使われていた物をそのまま活用して頂いたり、本人の要望や好みのもを常に把握し居心地良く過ごして頂けるような環境づくりを行っている。	○	左記継続
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食堂は常に換気扇にて換気行っており、時間毎に窓を開け空気の入替えを行っている。居室は、起床時に換気開始し、日中休まれる際は休まれる時間以外で換気実施するなど配慮し、徹底して実施している。	○	左記継続。 入居者本人の意思で換気を心掛けてもらうように努めていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ベッドや廊下には手すりを設置し、浴室には滑り止め・手すりを使用したりと安全に生活を過ごせるよう工夫している。	○	左記継続
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの能力を個人のペースで活用し、安心して生活できるよう工夫している。	○	左記継続
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑・花壇等作り野菜や季節の花などを育て、入居者と一緒に草むしりや収穫等の活動を行っている。	○	左記継続

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者それぞれの残存機能にあった作業や興味のあることへの活動を促し、職員と一緒に楽しく取組んでいる。
- ・地域で行われる催し物には積極的に参加し地域の方とふれあう機会を随時設けている。
- ・時季に応じた活動(花見・梅干作り・高菜漬けなど)を行っている。
- ・健康管理に関しては、かかりつけ医、訪問看護との連携が取れており、家族へは近況報告を適時行なっている。